

奨学金で若者が

夢を諦めることのない

社会を目指して。



ガクシー



奨学金情報が必要な人に届いていない

現在学生の2人に1人が奨学金を利用していますが、奨学金情報の周知度は低い現状があります。

必要な学生に情報を届けて支援を提供することが重要です。

奨学金の内訳では77%が貸与型(=返済が必要)で給付型は23%という割合です。

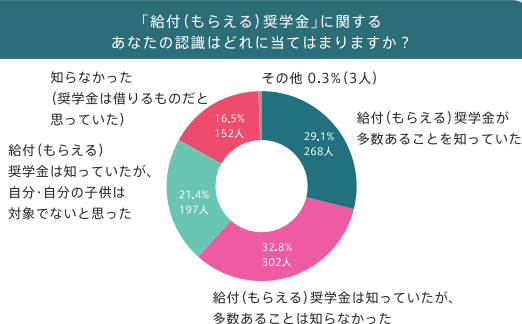
貸与型の奨学金を受け取った学生は大学卒業後、平均して40歳くらいまで毎月1.5万円程度、返済をしている方が多数です。

POINT.01



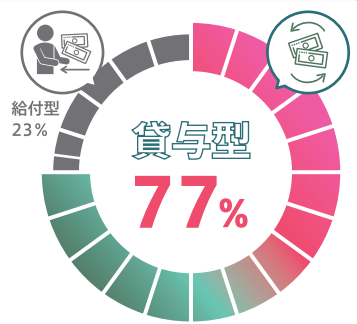
出典：日本学生支援機構「令和4年度 学生生活調査」

POINT.02



出展：ガクシー「奨学金に関する実態調査2023年」

POINT.03



出典：日本学生支援機構「令和4年度 学生生活調査」

教育費に対し給付型奨学金の総量が足りない 資金提供者が奨学金支援したくても 便利な仕組みがない

資金提供者が奨学金で若者支援をしたくても、財団を立ち上げるのは大変で便利な仕組みがなく、あまり若者に資金がまわっていない現状があります。

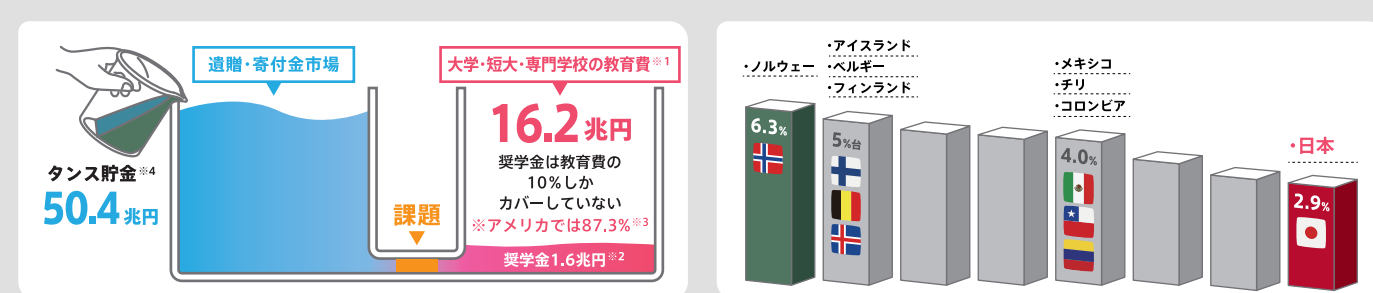
大学・短大・専門学校の教育費全体が16.2兆円ですが、そのうち奨学金は1.6兆円と教育費の10%しかカバーできていません。

高等教育に関して日本は自己負担割合が非常に高い国となっています。

一方、アメリカでは87.3%が奨学金をはじめ公的負担の割合を受けています。

GDP(国内総生産)に占める教育の公的支出の割合で見ましても、日本はOECD加盟35か国中最下位となっています。

ガクシーは給付型の奨学金を増やすべく、若者の可能性を広げる新しいお金の流れを創造してまいります。若者支援したい資金提供者向けにも簡単にオリジナル奨学金が作れる仕組みを提供します。



※1 令和4年文部科学省データより学生数と学費(平均)を基に試算
 ※2 令和4年日本学生支援機構業務実績にその他奨学金を加えた試算
 ※3 Education Data Initiative調査 / ※4 第一生命経済研究所試算



JASSO奨学金が大半で、貸与型が多い。

それ以外の奨学金情報が学生・保護者に届いていない

アナログな運営業務により学生も運営側も大変

奨学金の流通金額が少なく、
教育費の自己負担比率が高い

やるべきこと TASK 01



奨学金情報の流通
とマッチング

やるべきこと TASK 02



奨学金運営の
効率化・DX化

やるべきこと TASK 03



奨学金の数・量を
増やす

必要な人に必要な情報が届く

DX化による効率的な業務体制となることで
業務負荷が減少し、学生への周知や対応が
より活発になる

若者を直接支援したい資金提供者向けに
オーダーメイドで「オリジナル奨学金」設立が
簡単にできる仕組みの提供で奨学金総量が増大



利便性の高いクラウドプラットフォームを提供する
ガクシーのビジネスモデルは、
奨学金の利用者、運営者、資金提供者それぞれを
効果的に連携させることで、業界全体を変革へと導きます。



WORKS 01 学生・保護者向け奨学金検索サイト『ガクシー』の運営

日本にあるほぼ全ての奨学金を網羅した国内最大級の奨学金サイトです。
奨学金情報をランキング・人気のテーマや豊富なコラムでお届けし、様々な条件で検索が可能のため、あなたの目的にあった奨学金を見つけることができます。

- 国内1万6000件以上の奨学金情報を網羅
- 充実した検索機能
- 豊富な奨学金記事(コラム)
- 無料会員登録で利便性アップ



WORKS 02 クラウド型奨学金運営管理システム『ガクシーAgent』の開発と提供



LGWAN(総合行政ネットワーク)にも対応!



学校・財団・企業・自治体様への導入が進んでいる奨学金運営者向けの管理システムです。応募者の受付から選考・支給・返還管理に至るまでの奨学金に関する業務を一元管理することで、奨学金業務を効率的に進め、奨学金運営現場における多くの課題を解決します。

ペーパーレス 奨学金運営業務をオンラインで一本化	工数削減 奨学金運営にかかる業務量が1/3に	人的ミス削減 システムによる管理で人的ミスを削減
申込・選考管理 申込・選考状況をかんたんに確認	コミュニケーション ボタンひとつでチャットやWEB面接URLを発行	集客・広報支援 奨学金サイトガクシーとの連携で学生が奨学金を直接WEB申込可能に

奨学金業務運用代行サービス(ガクシーBPO)



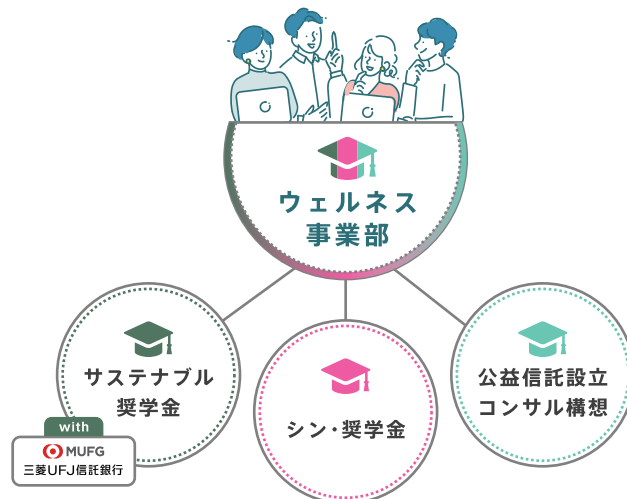
人材募集から応募者受付、書類選考、面接の実施、合格者対応、支給管理に至るまでの一連のプロセスを一括して対応します。専門的な選考により適切な候補者の採用を実現し、組織の成長をサポート。採用活動を効率的かつ効果的に進めるサポートを提供します。



修学支援申請度の負荷をゼロに

ガクシーBPOを利用すれば、奨学金業務に精通したスタッフが応募～給付決定後の対応することで、業務をラクにし学生とより多く向き合う時間をご提供できるようになります。

WORKS 03 手軽に若者支援!オーダーメイドの奨学金設立が可能 ウェルネス事業部



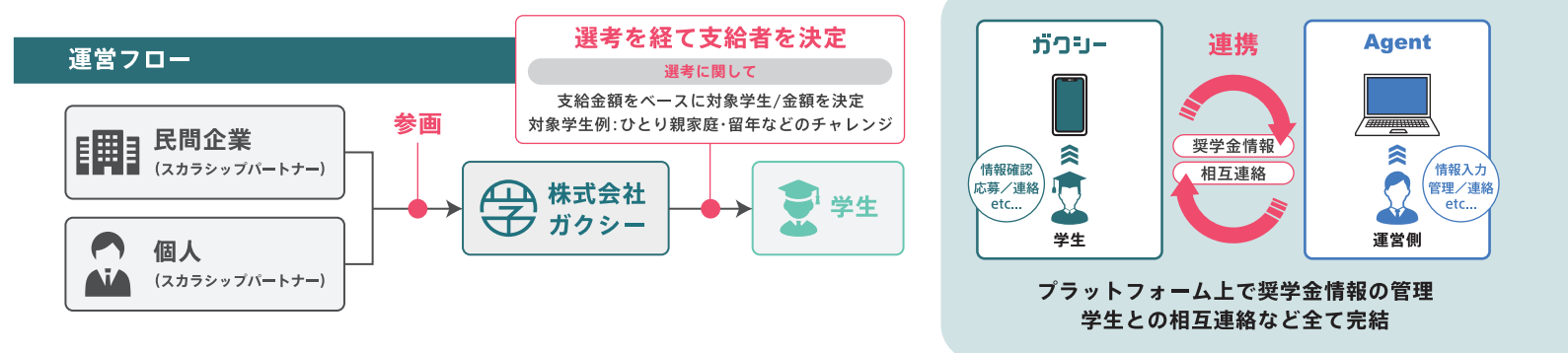
オーダーメイドの奨学金を作ることができます。
資金提供者様のご要望をお伺いしつつ、奨学金給付条件を設定します。冠名を付けた奨学金を作ることもでき、自ら奨学金財団を運営するよりも、負担が少なく支援が可能です。

奨学金支援を通じて学生との新たな接点づくりに活かします。

奨学金支援や对外公表等を通じて自社を知ってもらう新たな機会につなげることもできます。奨学金支援を通じて学生との新たな接点作りに活かします。

奨学金設立サポート『シン・奨学金』

ガクシープラットフォームを活用することで、手間暇のご負担なく、支援したい学生を支援できる仕組みで、お客様のご希望に沿った奨学金を創設できるサービスです。お預かりした資金から手数料を除いた全額を寄付します。募集から選考、奨学金支給まで運営のほぼすべてをガクシーに任せすることができます。従来の奨学金創設に掛かる財団の設立や運営などの手間を大幅に削減でき、運営の全てをBPO(運営代行)でお任せいただくことも可能です。



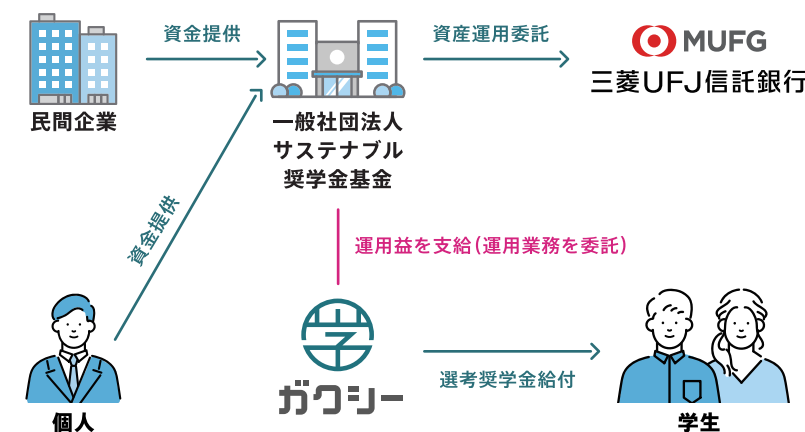
新たな取り組み『サステナブル奨学金』

ガクシー × 三菱UFJ信託銀行

本企画は、お預かりした資金をもとに運用を行い、その利益を給付型奨学金として配る、**持続型の新しい若者支援の形**。奨学金は今や学生の2人に1人が活用している身近で重要なものになってきていますが、最大の課題はその多くが貸与型=借金という課題を解決したいと考えています。

MERIT

元本ではなく運用益のみを充当することで、**持続的な支援を実現します**





「自画像」／池田 世知

奨学金という 社会貢献があります

奨学金を受給している学生へのインタビュー

この作品は奨学金を受けて

美大に通っているアーティストの作品です。

バスキアを好きなことから LA 渡航費を奨学金という形で受給してバスキア作品を体感。

四方をバスキア作品で囲まれた室内で

「私が初めてバスキア作品を見たとき、ただただ立ち尽くしてしまった。

気がつくと100分もの時間が経過しており、まさにこの時の私は意識下と無意識下の境目にあった。」

日本に帰国してこの時受けたインスピレーションをもとに描いた作品がこの「自画像」



池田世知 (Seshiru Ikeda) 2003年生まれ。多摩美術大学芸術学科在学中。生と死の境界をテーマに、儀式性と精神性を作品に昇華させるアーティスト。作品制作を「行為としての芸術」と捉え、観る者を巻き込み、供養や祈りといった普遍的な儀式的場を現代アートとして再構築している。売却歴のある起業家という経歴を持ち、徹底的なリサーチとマーケット分析を基に制作を行う。活動歴2年ながら、国内外で注目を集める存在となり、アメリカや台湾といった現代アート先進国をはじめ、バーレーンやフィリピンといった新興市場でも作品が取引されている。池田の制作は、マーケットや社会と密接に関わりながらも、美術史に基づいた哲学的探求を背景に持つ。藤田嗣治イズムを継承しつつ、「儀式的モダニズム」という独自の表現で、美術と社会の新しい関係を築き上げている。主な展示歴 2023年個展「武者ぶるい」、2024年個展「いざない」、企画展「Seshiru IKEDA with Art Startups 2024」



01 Interview with Scholarship Student

Q. 奨学金を受け取ったきっかけは何か？

たまたま、ある起業家の方が奨学金を出す相手を探していると知って、連絡をしました。好きな画家はバスキアで、LAにある「ザ・ブロード」で本物をみられま

すが、生で見たことはないと伝えました。そこで奨学金をいただいて1ヶ月美術館とギャラリーをたくさんまわり多くの刺激を受けました。そのことがきっかけで、他の奨学金も探し始めたところ、ガクシーを知って登録。いくつかの奨学金を受給して美大に通っています。

Q. 池田さんにとって奨学金はどのような存在ですか？

奨学金は自己の証明の入り口です。受給して改めて自分が何を成すべきかアイデンティティをはっきり認識できました。

Q. 将来の夢を教えてください。

美術史に残るような文脈になりたいです。今日まで長い歴史が紡がれている中で、自分が受けたバトンを正しい文脈で次の世代に繋げられたら良いと思っています。

02 Interview with Scholarship Student

奨学金は未来を照らしてくれる光のような存在です！



Q. 奨学金を受け取ったきっかけを教えてください。

奨学金を受け取ったきっかけは高校生の時に立て続けに両親を亡くしたことです。そのことがきっかけで、一時期大学に行けないかもしれない、今まですごく勉強してきたことが無駄になったような暗闇の中に落ちたような感覚になりました。

返さなくていい奨学金があるということを知り、一筋の光が差し込んだような感覚になりました。

Q. 給付型奨学金を受け取って大学に通われているということなのですが、今の大学生活について教えてください。

今の大学生活では、給付型奨学金によって学費を賄えているところで、アルバイトは無理せず自分が楽しくなっているくらいに取り組めていて、勉強の方にも集中して取り組めているかな

というふうに感じています。

これまで勉強してきたのは、私、理学部の自然環境科学科ってところに所属しているんですけども、環境問題であったりとか、分析化学であったり、生態学であったり、広く自然生物だったり、化学だったりってことを学んでいます。これからは先進的な地熱発電の実証、地熱発電、先進的な地熱発電の実現に向けた基礎的な研究を行っていく予定です。

Q. 将来の夢は何ですか？

持続可能な社会の実現に向けて社会に貢献していけるような人材になっていき



いなというふうに思っております。

Q. 今後奨学金を受け取る後輩へ伝えたいことはありますか？

ガクシーではまとまった奨学金の情報サイトがあるので、そういったサイトを活用しながら、自分の手でどんな奨学金があるのかっていうのをたくさん集めてほしい、調べてほしいなと思います。その中で自分の状況にあった奨学金を選べる、選ぶことができれば、より充実した大学生活が送れるんじゃないかなというふうに考えています。

Q. 今後奨学金に期待することは何ですか？

分かりづらいけど困っているような子たちってたくさんいると思っていて。そういった若者たちに広く給付型奨学金が行き渡るような仕組みができればいいんじゃないかなというふうに思っています。

奨学金がなければ、私は大学に通うことができませんでした。奨学金は暗闇の中にいた自分を救ってくれた未来を照らしてくれる光のような存在です。



Q. 留学の概要を教えてください。

ジャーナリストを目指してジャーナリズムで有名なフランスのリールという街で修士号取得に向けて学んでいます。

Q. どんな生活を送っていますか？

授業が月曜から金曜の9時から18時まであります。昼休みが12:30～14:00の1時間半あります。日本より長いですが、昼休みにはご飯を食べながら取材の連絡をとったり、新聞・テレビ・ラジオでニュースを見たりして情報のインプットをしています。授業後には記事を書く実践課題があって、毎回評価を受けているので平日はプレッシャーが大きいですが嫌だと思ったことはないです。毎日の生活でジャーナリストとして生きていく上での姿勢が身につきました。日本より物価が高いのと円安の影響は正直大きくて、日々、節約を心がけています。



Q. 留学して良かったことは何ですか？

各分野のエキスパートのジャーナリストがきて授業をしてくれるためフランスの報道機関の現場がわかって貴重な学びを得られることです。授業にとっても満足しているのはもちろん、同期の学生からたくさん刺激を受けています。日々学生同士で政治問題だけでなく、様々な社会問題の議論をよくしています。インターナショナルな環境で色々な国の学生と関わり、それぞれ歴史的な背景などが違う人たちと交流できるのはとても面白い経験です。

Q. 逆に留学して大変だったことは何ですか？

行政面の手続きも日本とは違うので大変でした。住宅補助申請とかアパートの不備があった時に大家さんに連絡するなど、こちらから連絡しても回答が遅いな

どの環境の違いの中で戦う、主張する必要がある、交渉力が身につきました。

Q. 奨学金情報サイト「ガクシー」を活用していかがでしたか？

ガクシーはサイトから奨学金を網羅的に見られるのが良いのと、出資している方(団体)が多彩なので自分に合った奨学金が見つけれられると思います。

完全に奨学金が留学の後押しをしてくれました。おかげでジャーナリストという夢を諦めずに挑戦することができているので感謝しています。

Q. 留学を考えている方にアドバイスをお願いします。

海外留学は勉強のためにするものですが、勉強だけでなく、海外での生活面や言語面などの困難を乗り越える中で人間的にも精神的にも成長できます。

グローバル化の反動で、現在世界的な潮流としては内向きな傾向があり、留学への意識が世界的にも低くなっていますが、自分の生まれた国を離れて海外に挑戦することはこういう時代だからこそ貴重であると思います。

03 Interview with Scholarship Student

正直、奨学金がなければ留学できなかった。 奨学金でジャーナリストの夢に挑戦！

BOARD MEMBER

経営メンバー



Founder & CEO

松原 良輔

1社目の起業で海外の学生と日本の学生の金銭面での学ぶ環境の差を痛感し、日本の高等教育における阻害要因はなんなのかを突き詰めていった結果、奨学金の正しい情報が必要な人に届いていない、奨学金の総量が不足している課題に気づきました。日本の未来のために「夢を諦めなくていい社会の実現」をビジョンに掲げガクシーを起業。奨学金関連事業を通じて教育格差の是正・貧困の撲滅といった社会課題解決を目指し「諦めなくていい社会」の実現に日々邁進しています。

OUR CLIENTS

クライアント

弊社クライアントの一部の団体様となります



神田外語大学



21世紀を生き抜くチカラ。
北陸大学
HOKURIKU UNIVERSITY



高崎健康福祉大学



福岡山公立大学



神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY



神戸学院大学
KOBE SAKURUI UNIVERSITY



船橋情報ビジネス専門学校



新潟青陵大学
新潟青陵大学短期大学部



i-SEIFU



Gunma
Akao
Scholarship
Foundation



The Daijoh
Foundation
公益財団法人
安田奨学財団
Yasuda Scholarship Foundation



Akao
Scholarship
Foundation



一般財団法人
エン人材教育財団



大島町
Oshima City Official Website



文部科学省



トビタテ!
留学JAPAN
Challenge Connect Co-Create



鳥取県



株式会社ガクシー GAXI, Inc

COMPANY PROFILE

代表者	代表取締役 松原 良輔
設立日	2019年3月1日
資本金	100,000,000円
所在地	〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-21-1 SHIBUYA SOLASTA ビジネスエアポート渋谷南平台 3F
URL	https://gaxi.co.jp/



事業・サービス詳細についてのお問い合わせは下記ご連絡先までお問い合わせください。

TEL: 050-3647-4177 / Mail: contact2@gaxi.co.jp